

被覆肥料のプラスチック被膜殻の流出防止対策について

- 被覆肥料は、省力化や施肥量の削減につながるなどのメリットがあります。
- その一方、表面をプラスチックなどで被覆しているため、肥料成分が溶け出した後のプラスチック殻が水面に浮かんで河川や海洋等に流出するおそれがあります。

流出の9割は代かき時期に起きています。
流出防止と代替技術の2パターンで対策を！

動画



<https://www.maff.go.jp/c/hushi/seisan/kankyo/hifu/ku.html>



レベラーでは場を均平化しておくこと浅水代かきがしやすいです。その後自然落水を。

その1: 流出防止



浮かび上がったプラスチック殻をすくい取り

詳しくはこちらを



<https://www.maff.go.jp/chushu/seisan/kankyo/hifuku.html>



落水口にネットを張って捕集



このような網の張り方も

材料はすべて百均で揃います



その2: 代替技術



スーパーIB



ウレアホルム肥料



流し込み液肥



ドローン施肥



ペースト2段施肥

流出防止対策に使える機械等の 導入に当たって活用可能な 補助金等

事業名	採択要件	補助率	予算年度	対象となる機械等
産地生産基盤 パワーアップ 事業 (基金事業)	産地パワーアップ 計画で設定した産 地全体で基準を 満たした目標を設 定すること、面積 要件を満たしてい ること 等	1/2以内	R3 補正	自動アシスト田 植機 レーザーレベ ラー ドローン
農地利用効率 化等支援交付 金	成果目標を設定 し、生産の効率化 等を行うこと、農 業用機械の導入 のための融資を 受けること、事業 費が50万円以上 であること 等	補助率：融資 残額のうち事 業費の3/10 以内 等 補助上限額： 300万円等	R4	自動アシスト田 植機 レーザーレベ ラー ドローン
スマート農業 の全国展開に 向けた導入支 援事業	生産性向上等	1/2以内 補助上限額 あり	R3 補正	ドローン(ハイ ブリット型か つ施肥に取り 組む場合)

お問い合わせ先

補助金等について 農林水産省中国四国農政局岡山県拠点

TEL：086-899-8610 FAX：086-899-8611



<https://www.maff.go.jp/chushi/nousei/okayama/okayama.html>

流出防止技術について 農林水産省中国四国農政局生産技術環境課

TEL：086-230-4249 FAX：086-224-9411



<https://www.maff.go.jp/chushi/seisan/kankyo/hifuku.html>

海洋汚染防止に向けてプラスチック被覆肥料の代替技術等を支援します！

みどりの食料システム戦略交付金のうち
グリーンな栽培体系への転換サポート

12 つくば未来
つくば未来



14 食の豊かさを
つなぐ



1. プラスチック被覆肥料とは

- 作物の生育に応じて肥料成分が溶け出すことから、春に投入することで、夏場の追肥を省力化できる肥料です。
- また、肥料の投入量も減り、地下水への流出などが抑えられ、環境への負荷も低減できる肥料です。



スケールの目盛りは1mm

2. プラスチック被膜殻の流出について

- 被膜殻は、水田などの**ほ場から水路や河川を通じて海洋に流出し、海洋汚染の要因**となることが指摘されています。
- そのため、プラスチック被覆肥料を使用したとしても**被膜殻がほ場から流出しないよう**気をつける必要があります。

3. プラスチック被覆肥料の代替技術等の例

- 代替技術
 - ① プラスチックを使用しない緩効性肥料への切替
 - ・硝化抑制剤入り流し込み液肥
 - ・硫黄コート
 - ・ウレアホルム など
 - ② 省力的な施肥体系への切替
 - ・ドローンによる局所施肥
 - ・ペースト2段施肥技術 など
- 流出防止対策
 - ・浅水代かき
 - ・自然落水
 - ・排水口におけるネットの設置 など



▲硝化抑制剤入り流し込み液肥



▲ドローンによる局所施肥



▲浅水代かき

4. 具体的な支援内容

(1) 支援対象

農業者、農業協同組合、都道府県等を含む協議会、都道府県※、市町村※

※農業者又は農業協同組合（農業者も参加）に加え、都道府県普及組織が事業に参加すること。

(2) 支援の内容

「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する技術」を取り入れた「グリーンな栽培体系」への転換を推進するため、産地に適した技術を検証し、定着を図る取組として下記の取組を定額※支援※※

※上限額300万円（2つの環境にやさしい栽培技術の取組（例えばプラスチック被覆肥料対策と化学農薬の使用回数の低減）を同時に行う場合は360万円

※※下記の全てに取り組むことを必須とする

- (i) グリーンな栽培体系の検証
- (ii) グリーンな栽培マニュアルの作成
- (iii) 産地戦略の策定
- (iv) 情報発信
- (v) 検討会の開催

(3) 交付対象経費

(2)に必要な検証ほ場・機械・施設の借上経費、資材購入費、データ分析のための委託費、検討会開催費等

(4) 配分時のポイントの考え方

取組内容や産地戦略の目標に合わせてポイント（最大28pt）がつけられ上位者より配分以下は、水稻でプラスチック被覆肥料対策の取組を行う場合のイメージ

環境負荷低減の取組（上限15pt）

取組内容に応じて最大15pt

例1：プラスチック被覆肥料を硝化抑制剤入り流し込み液肥に代替すると13pt

例2：被膜殻の流出防止技術として、代かき後の水管理を強制落水ではなく、自然落水で行うと11pt

他の環境にやさしい栽培技術と併せた取組で2pt

例：化学農薬の使用回数の低減



▲硝化抑制剤入り流し込み液肥

+

省力化に資する技術（上限9pt）

省力化度合いに応じて最大9pt

例：リモコン式草刈り機により、畦畔の草刈り作業にかかる時間が35%以上減少で9pt



▲リモコン式草刈り機

+

普及面積（上限4pt）

水稻では70ha以上の拡大（目標年次までに）で4pt

(5) 参考情報

パンフレット 「プラスチックと賢く付き合うための農業生産現場での取組」

